

伊勢・三河湾貧酸素情報 (R3-9号)

令和3年8月26日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

令和3年8月24、25日に伊勢湾、三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

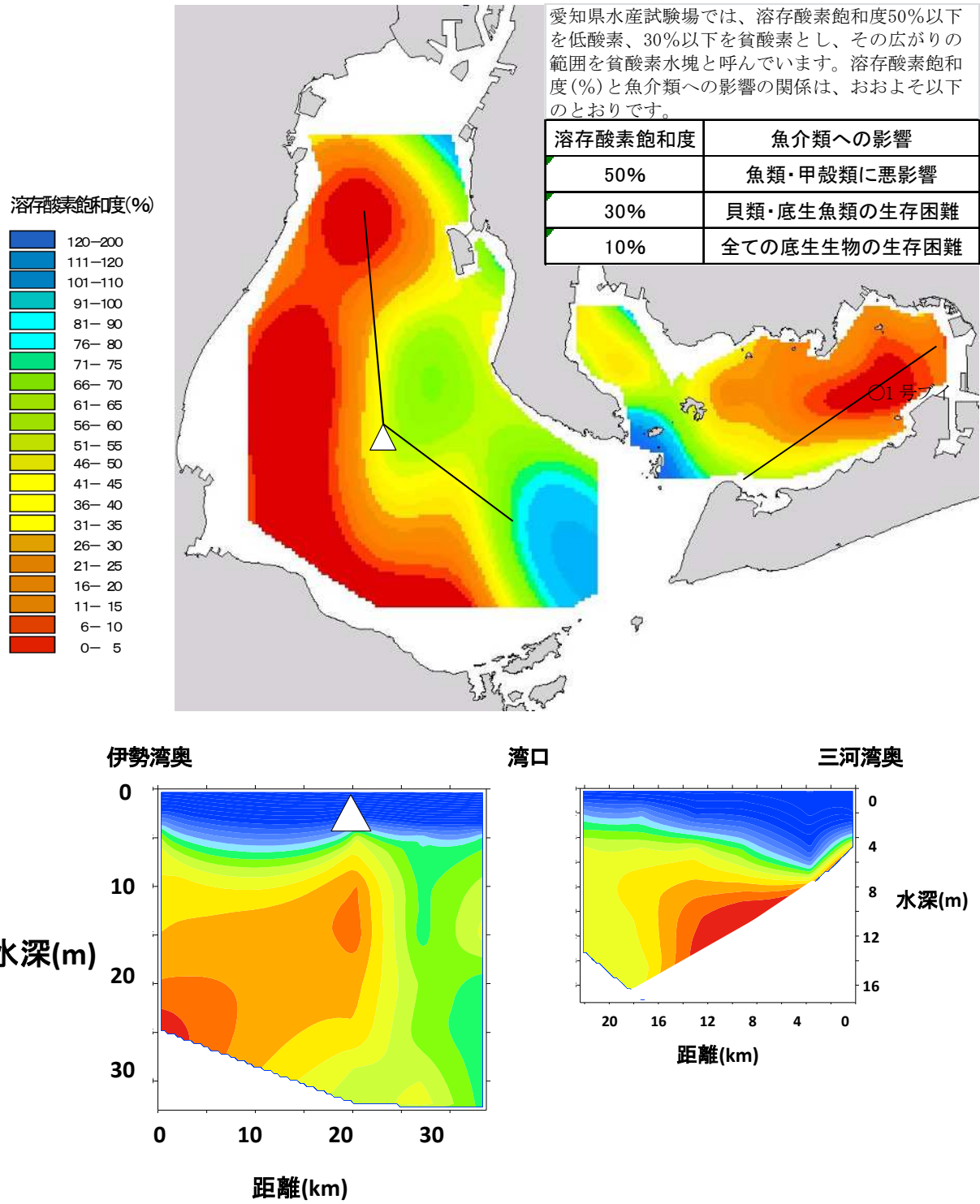


図1 伊勢湾(8月24、25日)、三河湾(8月24日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)(愛知県「海幸丸」「へいわ」調査)

伊勢湾

8月24、25日の調査結果を図1に示しました。伊勢湾西部を中心に貧酸素水塊が形成されています。一方で、湾口部から湾中央部にかけて溶存酸素飽和度が40%以上の水塊が見られます。鉛直断面図でも湾口部から湾中央部では中層と比べて底層の溶存酸素飽和度が高くなっており、貧酸素水塊が中層へ持ち上げられていることが確認されました。湾口部から湾中央部にかけて底層塩分が高かったことから、外海水が流入していたことが考えられます。

今後も好天が続く予報であることから、成層化が進み貧酸素化が進行することが予想されます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	24.3~27.3	5.8~24.6
底層	21.3~24.6	31.6~33.9

三河湾

8月24日の調査結果を図1に示しました。渥美湾の中央部から湾奥にかけて溶存酸素飽和度30%以下の貧酸素水塊が確認されました。一方で、福江沖や知多湾においては溶存酸素飽和度が30%以上となっていました。三河湾海況自動観測ブイ(蒲郡沖、1号ブイ)のデータを見ると、8月中旬に表層から底層にかけて溶存酸素飽和度が一様になっていましたが、下旬には貧酸素水塊が徐々に厚さを増しています。中旬の降雨の影響により表層塩分が低下したことと、22日以降の好天による表層水温上昇により、水温塩分躍層が生じたことで貧酸素水塊が発達していると考えられます。

今後も好天が続く予報であることから、成層化が進み貧酸素化が進行することが予想されます。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	27.1~28.4	13.6~21.0
底層	24.2~26.8	25.2~32.4

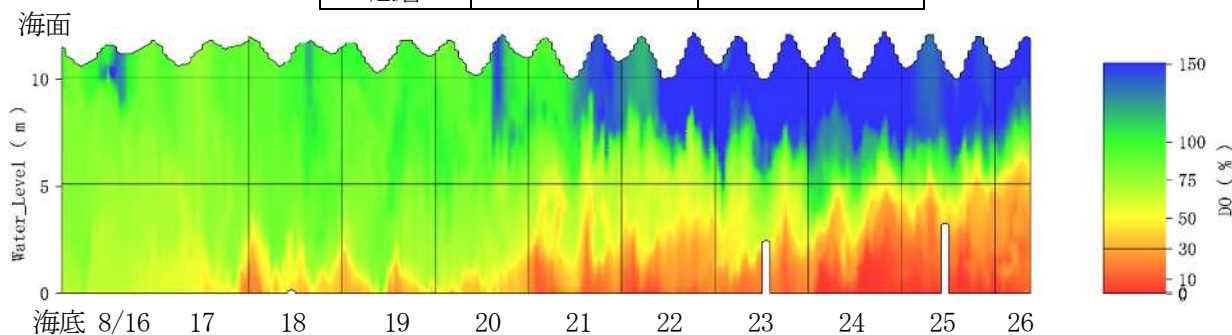


図2 溶存酸素飽和度(DO)の経時変化(三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ)

参考

前回調査時の伊勢湾、三河湾底層の溶存酸素状況

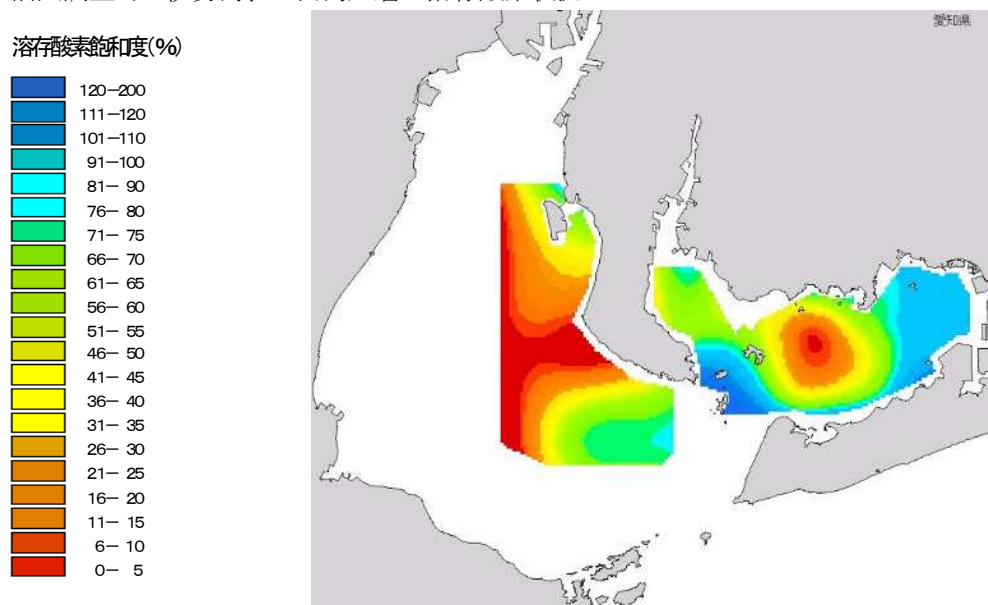


図3 伊勢湾(8月2日)、三河湾(8月11日)